

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 3 月 15 日作成)

小委員会名	集合住宅小委員会	主 査 名：福田 展淳 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：久野 覚 主 査 名：福田 展淳
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2010 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>集合住宅の屋外及び屋内の環境工学分野での研究成果や知見を具体的な計画・設計に取り入れるための検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2006 年、設計・計画に行かせる環境工学的知見の抽出、文献収集</li> <li>・ 2007 年、出版物の検討 1：データ整理、執筆者、執筆依頼の検討、文章依頼、文章作成、研究協議会の準備・・・プライベート HP 上での検討、意見交換</li> <li>・ 2008 年、大会研究集会の開催、シンポジウムの準備、出版物の検討 2：編集作業、プライベート HP 上での検討、意見交換、パブリック HP での公開</li> <li>・ 2009 年 シンポジウムまたは研究協議会の開催、出版物の刊行の検討</li> <li>・ 2010 年 出版物の内容の再検討、他の出版物との整合性の確認</li> <li>・ 15 年 より詳細な公開可能な資料の精査、シンポジウム・出版物などの検討</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無： なし</p> <p>福田展淳 (主査/北九州市立大学)、隈裕子 (幹事)、平松友孝 (音・環境研究所)、高偉俊 (北九州市立大学)、尾崎明仁 (京都府立大学)、中島裕輔 (工学院大学)、山本洋史 (東京ガス)、吉田正 (オブザーバー/東京ガス)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2010 年度予算	150,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s2/houseWG/framepage.htm">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s2/houseWG/framepage.htm</a></p>

項 目	自己評価
委員会開催数	0 回：3 月開催が、震災の影響で中止。 (メール等の意見交換で議論)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. (書名)
講習会	1. (名称) <span style="float: right;">参加者数 名</span>
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称) <span style="float: right;">参加者数 名</span> (資料名) 2. (名称) <span style="float: right;">参加者数 名</span> (資料名)
大会研究集会	1. (名称) <span style="float: right;">参加者数 名</span> (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 設計者等に伝えるべき必要度の高い環境工学分野の知見の検討 (80%)</p> <p>2. 非公開 HP 上でのテーマの掲示と内容の検討 (70%)</p> <p>3. 環境工学委員会への意見募集の案内の作成、提出準備 (70%)</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 熱環境、音環境はある程度テーマが抽出できた。環境心理の分野の検討が不十分である (2010 年度段階)。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2008 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>C</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>一昨年度に行った既存論文の収集と昨年度の検討事項を踏まえ、既存の論文及び学会発表の中から、集合住宅に関する知見を集め、執筆者及び論文の内容を踏まえた項目を収集したが、この中から、再度の項目の絞り込み、内容の検討を行った。</p> <p>音（遮音）、熱（断熱）、省エネ技術など、ある程度の絞り込みを行い、論文執筆者に、内容の確認などを依頼する予定であったが、準備段階である。</p> <p>3月末を目処に、再度、集合住宅における環境工学的知見の整理を行い、どのような内容とするかの方針を再確認する予定であったが、震災の影響などがあり、委員会が開催できていない。</p> <p>論文だけでなく、日本建築学会から出版された書籍にも、研究者間ではよく利用されているが、設計者に伝わっていない内容が多くあるとの指摘があり、それらも踏まえてトピックの抽出を行うこととした。</p> <p>また、論文や著作からの引用に留めるのか、著者に内容の確認などを行うべきかなど、個々のトピックでの検討が必要な項目があり、それらの対処を議論する必要があるが、本年度はそれが、行えなかった。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。